

# 早稲田大学 琉球・沖縄研究所

The Institute for Ryukyuan and Okinawan Studies  
in Waseda University

- P. 1 ~ P. 2 これからの企画
- P. 2 寄贈本等のご紹介
- P. 3 ~ P. 4 ご報告

研究所ホームページ: [www.waseda.jp/prj-iros-waseda/](http://www.waseda.jp/prj-iros-waseda/)

ニューズレター No. 3 2008年8月20日発行

## これからの企画

### ● 企画展「ワセダとオキナワ 第七代総長大濱信泉とその時代」

(主催:早稲田大学大学史資料センター、早稲田大学 琉球・沖縄研究所)

日程: 10月24日(金)~11月16日(日)

場所: 會津八一記念博物館 (早稲田キャンパス正門より入って左手)

### ● シンポジウム 「オキナワからワセダへ 大濱信泉総長時代の沖縄留学生」

日時: 10月30日(木) 時間未定(夕方)

場所: 国際会議場第3会議室(予定)

◇ 講演者: 由井晶子さん、大城将保さん、ほか1名

司会: 勝方=稲福 恵子

### ● 展示物提供のお願い

「ワセダとオキナワ 第七代総長大濱信泉とその時代」というテーマでの展示を企画しており、これに関連する資料を探しています。とりわけ、大濱総長時代(1950年代~60年代にかけて)の学生生活に関する資料で、たとえば、学生手帳、学帽、パスポート、入学関係書類、卒業アルバム、写真類、ピラ、パンフレット、講義ノート、日記などです。9月20日(土)までに、早稲田大学 大学総合センター、担当: 檜皮(ひわ)までご連絡ください。

◇ Tel: 03-5286-1814 / Fax: 03-5286-1815 /

e-mail: [shinsen@list.waseda.jp](mailto:shinsen@list.waseda.jp)

### ● 東京国立近代美術館 沖縄展「乱反射するおきなわ」連動企画

「人類館」(知念正真原作)を劇団創造が大隈講堂で上演

(主催:東京国立近代美術館/後援:早稲田大学 琉球・沖縄研究所)

日時: 12月16日(火) 18:00開演

場所: 早稲田大学 大隈講堂

入場は無料ですが、公演費用を主催・後援側で分担するため、寄付を募ることにさせていただきました。

寄付者(一口=5,000円)には、優待席をご用意します。なにとぞ、よろしくお願いいたします。

◇ ご寄付受け先: 早稲田大学アジア研究機構 琉球・沖縄研究所

受け付け期間: 2008年9月1日(月)~11月28日(金)

受け付け口座: みずほ銀行 早稲田支店 普通口座 2135387

● **シンポジウム 「なぜ今、人類館なのか」**

日時：11月18日(火) 18:00～21:00

場所：早稲田大学 早稲田キャンパス9号館9階917会議室

コーディネーター：勝方=稲福 恵子（早稲田大学 琉球・沖縄研究所所長）

● **沖縄文化協会第89回総会並びに第30回授賞式（一般参加歓迎）**

受賞者は、10月18日の記者会見で発表され、各新聞紙上で公表される予定です。

日時：11月22日(土) 総会 12:00～13:00

授賞式・記念講演 13:00～16:00

懇親会 16:00～18:00

場所：大隈会館（授賞式・記念講演は2階会場、懇親会は3階会場）

● **2008 沖縄ドキュメンタリー映画祭**

（主催：法政大学沖縄文化研究所 / 共催：早稲田大学 琉球・沖縄研究所、沖縄学研究所）

日程：9月20日・21日・22日・23日、10月4日・5日・11日・12日・18日

場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス内 外濠校舎 6階 薩埵ホール

作品：『沖縄久高島のイザイホー』『カペールの馬』『女が男を守る島 - 久高島の1年』『イザイホー』『イザイホー1990年 - 久高島の女たち』

『チェンバレンの厨子嚮』『Sacred Vandals (聖なる破壊者)』『海南小記序説・アカマタの歌 西表・古見』『ナナムイ』『島クトゥバで語る戦世』

『与論島の十五夜』『佐仁の八月踊り』『龍郷のアラセツ』『諸鈍シバヤ』『奄美のノロまつり1 加計呂麻島』『奄美のノロまつり2 - 奄美大島』

『キューバ沖縄移民 家族の系譜』『ペルーの大地にウチナーンチュの絆強く』『サルサとチャンプルー』『池間島のユークイ』『ユークイ2001』

（伊良部島の世乞い）』『竹富島の種子取祭』『石垣川平のマユンガナン』『狩俣の祖神祭(仮)』『長編ドキュメンタリー映画 ひめゆり』

2008 沖縄ドキュメンタリー映画祭 ホームページ <http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/top/top-index.html>

**者 贈 本 等 の ご 紹 介**

- 東京沖縄県人会・会長の川平朝清氏より、ビデオ作品『NHK 琉球の風(ウチナーグチ総集編)』や、『琉球の風物』『琉球の民家』など、貴重な沖縄関連映像11作品と、『戦前の那覇市の航空写真』(1.5m×2m)をご寄贈いただきました。

- 矢野経済研究所・特別顧問の矢野弾氏より、ご母堂で詩人の矢野克子氏蔵書の中から、『琉歌全集』（島袋盛敏・翁長俊郎）、『琉球服装史』（嘉数津子）、『沖縄文化財百科』（那覇出版社）、『沖縄の工藝』（講談社）、『沖縄の民藝』（美術出版社）など、稀覯本のご寄贈をいただきました。

- サマディ・グループ(早稲田塾などの経営)の新城肇氏より、ご蔵書の中から『伊波普猷全集』（第1巻～第11巻）、雑誌『新沖縄文学』（1970年代 - 80年代を中心に）、『謝花昇集』（伊佐真一編・解説）、岩波書店『文学』（特集=沖縄の文学・文化 / 1972年4月号 vol.40）など、段ボール3箱分をご寄贈いただきました。

- 西原町立図書館(宮城保・館長)より、『西原町史』全巻と、バジル・ホール『大琉球島探検航海記』挿絵の拡大ポスターをご寄贈いただきました。

- 北海道札幌市の伊藤孝氏が遺された膨大な沖縄戦関連の書籍を、ご遺族よりご寄贈いただきました。仲介の労をとってくださったのは、故人とゆかりの深い沖縄女性史研究者・新垣安子氏。たいへん貴重な資料ですから、「伊藤孝文庫」として整理したうえで希望者に閲覧できるようにしたいと、北村毅研究員の研究室で、閲覧の準備をしています。
- その他の方々からも、折につけ、貴重な文献・資料をご寄贈いただき、感謝しております。琉球・沖縄研究のために、大切に活用させていただきます。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

## こ 報 告

### ■ 高橋孝代さん(客員研究員)第35回(2007年度)伊波普猷賞受賞 2008年2月12日

同賞は沖縄学の父といわれた伊波普猷の業績を顕彰し、故人につづく郷土の文化振興、学術の発展に寄与すると認められる研究や著書に贈られます。若手研究者がその栄に浴するという事は非常に稀なことで、近来にない快挙です。ちなみに、鹿児島県関係者の受賞は、第32回(2004年)の山下欣一・鹿児島国際大学名誉教授以来2人目。今回の授賞作品は、高橋孝代さんの『境界性的人类学 - 重層する沖永良部島民のアイデンティティ』(弘文堂)のほか、藤井貞和・立正大学教授の『甦る私学「古日本文学発生論」続・南島集成』(まろうど社)と、我部政明・琉球大学教授の『戦後日米関係と安全保障』(吉川弘文館)です。

贈呈式・祝賀会は、2月12日(火)18:00、「ザ・ナハテラス」(那覇市おもろまち)で盛大に行われました。

### ■ 琉球・沖縄研究所 紀要『琉球・沖縄研究』第2号発行のお知らせ

特集 = Writing Okinawa 沖縄を書く、沖縄が書く

【目次】

巻頭言 / 大城 立裕 「母は風化ノ口」

「競われた青写真

1951年の帰属議論における『復帰』支持と、論じられなかったもの」 上地 聡子

「戦死者遺骨のナショナリティ 1952年の沖縄をめぐる『遺骨野ざらし』問題」 北村 毅

「『反復帰』論の社会単位 抵抗する『沖縄』の基本構造」 小松 寛

「『沖縄問題』言説の変容過程からみた『復帰』の構造 沖縄教職員会・組合の教育研究集会の実例から」 高橋 順子

「文化を漕ぐ、言葉を焼べる 沖縄の近代性と共同体に関する民族誌的断章」 前高西 一馬

【追悼】「Sさんのこと」 熊本 博之



頒価: 1200円(送料込)

### ■ ドキュメンタリー映画「イザイホウ」上映会 2007年10月31日(水)

早稲田大学小野記念講堂において、ドキュメンタリー映画「イザイホウ」(海燕社)の上映会が行われました。1966年に撮影され、現在では途絶えたイザイホー神事と当時の久高島の生活をとらえた貴重な映像で、東京では初の上映となりました。上映に先立ち、監督の野村岳也氏による挨拶がありました。またロビーでは関連写真のパネル展示も併催され、平日の夜にも関わらず、のべ400名近くの方々にご来場いただきました。(田幸亜季子)

### ■ マイク・モラスキー先生(ミネソタ大学教授)をお迎えして 2007年12月14日(金)

『占領の記憶 / 記憶の占領 戦後沖縄・日本とアメリカ』(青土社、2006年)、『戦後日本のジャズ文化』(青土社、2005年、サントリー文芸賞受賞)などの名著で沖縄研究を世界に発信しているモラスキー先生をお招きして、「<沖縄を語る>という意味: 一人のアメリカ人研究者の視点」というテーマでアジアセミナーを開催。沖縄研究に携わってきた一人の

アメリカ人研究者としての立ち位置から、アメリカによる 27 年間の沖縄占領や、米軍基地問題などを自覚しながら  
<沖縄を語る>ことの根源的な意味を問い直すもので、他者表象と権力の関係に切り込んだ感銘深いレクチャーでした。

■ **平 恒次先生 (Taira Koji/イリノイ大学名誉教授)を研究所にお迎えして** 2008 年 6 月 6 日(金)

国際沖縄研究誌『The Ryukyuanist』を編集・刊行して沖縄研究を国際的に広めておられる平恒次先生をお迎えし、沖縄学講座(渡辺美季講師)終了後、大隈会館で歓談の時を持ちました。琉球新報社が第1回池宮城秀意賞を発表(Japan Focus が受賞)しましたが、その審査委員長として来沖され、ご帰国の途中、東京に立ち寄せられた折の早稲田ご来訪でした。

■ **「写真家・小野田正欣が見た 1950 年代の沖縄」** 2008 年 4 月 15 日(火) OCST 研究例会

報告者:小野田正欣(おのだ・まさよし)

コーディネーター:北村毅(きたむら・つよし 早稲田大学 高等研究所 助教)

小野田正欣氏は、第二次大戦後間もない沖縄に赴任して以来、復興期の沖縄をずっと写真に撮りつづけてきました。その膨大で貴重な記録は、那覇市歴史博物館に寄贈され、展示会が開催されるたびに大きな反響を呼んでいます。奥野修司著『ナツコ 沖縄密貿易の女王』にも、小野田氏の写真が当時の時代背景を語るものとして使用されています。また、2008 年『オキナワグラフ』新春特大号にも、小野田正欣写真資料(歴史写真館)として掲載されています。小野田氏を囲んで、ご自身がつぶさに観察した 1950 年代の沖縄を詳細に語っていただきました。

■ **津嘉山正種 ひとり語り 朗読劇「人類館」**

沖縄公演:キジムナー・フェスタ 2008 参加(後援:早稲田大学 琉球・沖縄研究所)

東京公演:2008 年 7 月 31 日(木)~8 月 3 日(日) 青年座劇場

1976 年に岸田國土戯曲賞を受賞した知念正真原作『人類館』を、「沖縄出身者として、体力・気力があるうちに、何とか実現させたい」と、俳優・津嘉山正種が熱演しました。演出は菊地一浩、スタッフは青年座製作部。琉球・沖縄研究所では、ドキュメンタリー作品『よみがえる人類館』(沖縄テレビ 報道部・宮城欽)の上映会&勉強会を2回開催しました。

**おくやみ** 高田普次夫氏 2007 年 6 月 14 日逝去、享年 87 歳

沖縄研究者や沖縄ファンで、高田さんを知らない人はいない。日頃から物心ともに恩恵をこうむっているのに、癌の発症を知らされたときは言葉を失った。せめていんなお話を伺いたいと、通院途中の高田さんとトシ夫人を荻窪のデニーズにお引き止めして、ひたすらテープを回しつづけた。熟したパパイヤをおいしそうに召し上がりながら、数時間も私たちにお話しして下さった高田さん。琉球・沖縄研究に関しては全くの門外漢だった私を、辛抱強く指導して下さった恩師である。沖縄研究は、アカデミズムに拘泥していたのでは学問として不完全であることを、身をもって立証して下さった。今でも、激励のお声が聞こえてくるようで、包容力のあるお人柄が偲ばれてならない。(勝方=稲福 恵子)

● **早稲田大学アジア研究機構 琉球・沖縄研究所** (所長:勝方=稲福 恵子)

〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学9号館902

琉球・沖縄研究所 支援委員会事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-8-2 (新宿書房内/担当:川平)

Tel:090-6029-6096 FAX:03-3262-3393